

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. 161

エントリー学校名：

岡山県真庭市立川東小学校

活動名：

見直しつなぐチーム川東
 一人一役分業制と人材育成

解決すべき課題：

学校組織の若年化とミドル層の薄い年齢構成、新学習指導要領の本格実施にあたり、生徒指導体制を強化し学力向上を推進していくべき課題が明確となった。組織を現メンバーで効率的に活性化させていく必要がある。経験や意識の差も課題である。そこで、中央研修で学んだカリキュラムマネジメントの考え方に立ち、広い視野を持って実践に臨むことができる人材育成のための体制改善に取り組んでみることにした。

目標・方針：

本校の教育目標にある、「笑顔あふれる学校」実現のためにも、教職員がやりがいを感じて元気でなければと思う。そのためにも、今実践していることが役に立っていると実感できるような取組にすることが必要だと考えた。今あるものを見直して『つなぐ』、今いる人の活躍の場を意識して『つなぐ』ことが、カリキュラムの再構築となり、若手を中心とした人材育成となるのではないかと考えた。

活動内容：以下の取組を、担当者間で具現化し、拡散していく。

- ①年度初めの分掌会議で教務主任担当の仕事を一人1つずつ担当してもらう。(教務主任と)
- ②教育事務所発の資料を基にケース会議の流れをチャート式で共有する。(生徒指導主事と)
- ③百人一首大会を教科等と関連付けて、全校一斉の取組として定着を図る。(担任と)
- ④朝時間交流やプチ授業参観を通して学び合う風土をつくる。(教務主任、研究主任と)
- ⑤カリキュラムと教職員の活動を見える化し、意味付けを行う。【キラリコーナー】(校長と) 写真2

活動の成果：

- ①ミドル層の担任が補教計画を担うことで、時間割や職員の動きを見たり交渉したり、声をかけたりすることになった。このことは、担任学級以外の見方をすることができる機会となった。(図1)
- ②ケース会議は、効率的に行われ、情報共有・共通行動ができ、担任は支援策が具体的で動きやすいと安心していた。(図2)
- ③大会前の予選会は、国語授業の一環として各担任が行うことで、百人一首を教科や常時活動と運動させて子どもたちに落とし込むことができていた。
- ④学力向上を目指した本校の指標「川東スタンダード」を振り返った。授業づくり学級づくりの一助となった。気軽に授業や学級経営についての話がなされている。(図3) (写真1) (図4)
 教職員が互いに少人数で話し合いながら活動を行っている。それぞれの立ち位置で自ら動き出している。

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- ・分掌業務を細分化し、一人一役の仕事を担当することで、学校全体を見渡す視野を広げること。
- ・学習や会議を振り返りフィードバックを共有することで、活動の意義を見直し学校の活性化につなげること。
- ・今ある活動と活動、今いる教職員一人一人繋がることで、カリキュラムの再構築と人材育成を進めること。

<写真, 図表添付欄>

図1



これまで教務主任が行ってきた仕事をいくつかピックアップし、教育事務として、一人1つずつ担当してもらった。

図3

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1 本時の目標	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
2 めあて	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
3 流れ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
4 準備	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
5 展開・指導	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
6 授業展開	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
7 学習形態	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
8 結果	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
9 ノート	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
10 決め	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
11 ふりかえり	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
12 その他	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
合計	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432

本時のめあて設定場面で、前時からの児童のまとめや振り返りをつなぐ流れを十分に意識化できていないことが見えた。これが、今年度の研究の視点となった。

写真2



教職員もこれらを児童にフィードバックし、成長を促す振り返りとしている。子ども、保護者はよく立ち止まって見ている。

図2

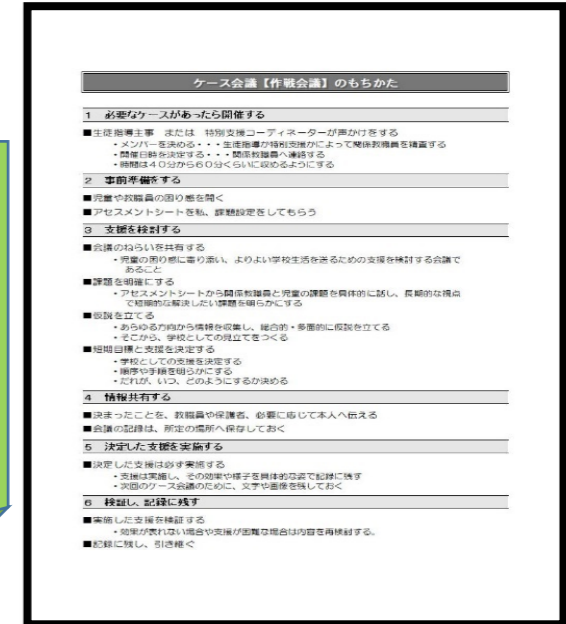
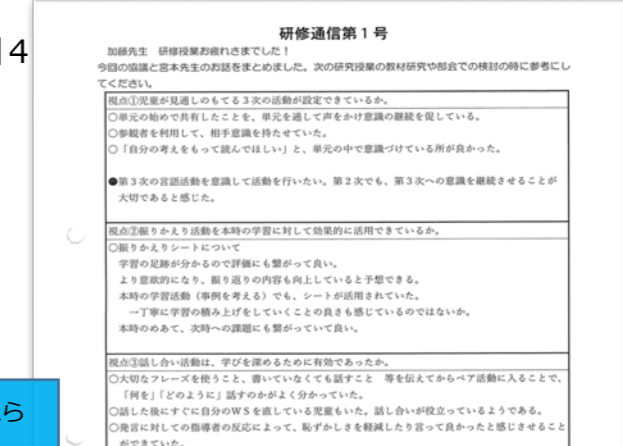


写真1



図4



新採3年目の研究主任は、研修通信を発行し、授業づくりの検証の視点に沿った授業参観シートを全員で共有できるようにした。自分にとってもとても勉強になったと話している。